

の理念についての議論を深めていこう、というのが私の提案の真意です。なぜなら、ロータリーの目的は、奉仕の理念を奨励し、これを育むことであり、「奉仕の理念」がロータリーの根幹であるからです。

そのように「職業奉仕」の捉え方を切り替えなければ、いつまでたっても、世界のロータリーとの溝を埋めることも、対話することもできません。

6年前、東日本大震災という大きな出来事に直面した私たち日本のロータリアンとクラブは、被災者や被災地区の支援に全力を注ぎました。そのとき私たちの心を突き動かしたのは、「職業奉仕」という言葉ではなく、ロータリーの「奉仕の理念」だったのでないでしょうか。

私は、ロータリーの「奉仕の理念」は究極の利他主義であると考えていますが、東日本大震災の時に見られた、日本だけでなく、世界中のロータリアンから寄せられた支援の手や思いやりの心に、世界を変えるロータリーの力と「奉仕の理念」の可能性を確信したのです。

伝統的「職業奉仕」論を超えて

「職業奉仕 (Vocational Service)」という言葉がロータリーで使われるようになったのは、1927年、ベルギーのオステンド国際大会で「目標設定計画」(The Aims and Objects Plan)が採択され、「四大奉仕部門」がクラブの管理運営の基本的枠組みとなった時からです。

「職業奉仕」という言葉が存在しなかった時代のアーサー F. シェルドンの「Serviceの哲学」を「職業奉仕」で語ったり、「Vocational Service」という言葉から天職論や職業倫理の要素だけを強調して語ったりする議論は、ちょっと強引なのではないでしょうか。

日本の伝統的「職業奉仕」論で培ってきた「職業倫理」や「高潔性」に関する日本のロータリアンの智慧を、共通言語の「奉仕の理念」で世界に発信していくことが重要だと思います。

世界のロータリーとの対話を通して、ロータリーの「奉仕の理念」とその実践について共通認識を醸成してゆく姿勢が必要です。そして何より、「奉仕の理念」を語るだけでなく、その実践が大事であることは言うまでもありません。

日本のロータリー 100周年に向けて

今年度のジョン F. ジャームR1会長は、各地の地区大会に寄せたR1会長メッセージの中で、「今ロータリーは、いわば転換期となる歴史的に重要な局面に立っています」と、ロータリーの現状認識を表明しています。R1も日本のロータリーも、地区もクラブも、いずれも大きな転換期を迎えており、将来のための新たなビジョンが必要とされている、ということだと思います。

これは私見ですが、現在の日本のロータリーとR1の間には残念ながら不幸な現状があると考えています。日本のロータリーは、世界全体のロータリー運動の中で、大きな潮流や変化に取り残されているように見えます。R1の方向性や現状に疑問や不満を感じる日本のロータリアンも増えており、このまま意識のギャップが拡大していけば、日本のロータリーがロータリー世界の中で孤立していくことが懸念されます。

日本のロータリーはこれからどのような方向に向かおうとしているのか、が今問われているのではないのでしょうか。戦略計画や補助金モデル(未来の夢計画)に象徴されるR1の方向性に背を向けて日本独自の孤立路線を歩むのか、それとも世界的ネットワークの重要な一員として、理念と活動の両面で21世紀のロータリー運動にリーダーシップを発揮できるようになるのか、二つの道のどちらに向かおうとしているのか、大きな岐路にあるのではないのでしょうか。

日本のロータリーが100周年を迎える2020年は日本のロータリーの将来の方向性を定めていくための大きな節目の年になると考えています。それは、ロータリーの理念と実践についての日本のロータリーのビジョンを、世界に向けて宣言・発信する絶好の機会ともなるでしょう。

日本のロータリーの現状と課題を明らかにし、全国のロータリアンの合意を形成しながら、世界のロータリーに発信できる、日本のロータリーの希望あふれるビジョン(将来像)を描くことが今求められているのではないのでしょうか。

終わりに

2016年7月に日本のロータリー100周年委員会(委員長は北清治R1元理事)が発足しました(『友』2016年9月号横組みP40~41参照)。私は、100周年委員会の「ビジョン策定特別委員会」に、第2620地区の志田洪顕パストガバナー、第2680地区の大室パストガバナーとともに参画しています。

世界のロータリーと共鳴できる日本のロータリーのビジョンを検討するとき、世界のロータリーと日本のロータリーとの意識のギャップを示す代表例として「職業奉仕」という言葉の受け止め方を再考する必要があると考えます。

もっと丁寧な歴史的背景説明が必要なのですが、私の見解の根拠は「ロータリー文庫」のウェブサイト、私の名前で検索すれば、「奉仕の理念」や「ロータリーの目的」、「奉仕部門」などに関する小論がいくつか収録されていますので、ご覧いただければ幸いです。

今回、皆さまが聞き慣れた「職業奉仕」論とは異質の講演をするのは、私にとっていささか勇気があることでした。本日お招きいただいた国際ロータリー第2790地区第3分区Aのロータリアンに敬意を表します。

■ ニコニコBOX

なし

本日の出席	総数	対象者	出席	欠席	出席率	ニコニコBOX	合計	9月19日(火) クラブフォーラム 親睦活動委員会主催 12:30点鐘 スカイウインドウズ 東天紅
	50名	37名	18名	19名	48.64%		44,000円	
前々回修正	メーキャップ		欠席	出席率			累計	
			2名	4名	92.68%			374,000円